

保育士 届かぬ「9000円」

政権掲げる補助 低調

私立 国基準超の人員 満額行き渡らず

岸田政権が掲げるエッセンシャルワーカーの処遇改善策として、保育士の収入を9%程度(月9千円)に上乗せする国の補助事業が始まった。しかし、実際の上乗せ額は月9千円に満たない人が大半という。専門家は「国の制度設計に問題がある」と指摘する。

「10千円」が独り歩きしているはず……。職員には申し訳ないです」
東京都内の私立保育園の園長はため息をつく。園は、3歳児では原則子ども20人に保育士1人など、職員配置に最低限の基準を設けている。それではきめ細かな保育は難しいため、この園では基準の1.5倍の保育士らが働く。このほか、朝夕に短時間勤務する職員も複数いる。

しかし、今回の補助で園から支給されるのは基準の人数分のみ。「全職員に月9千円は、今後の経営を考えると難しい」と言う。
東京都板橋区の私立「わかたけかなえ保育園」。園が定めた最低限の基準以上の職員を配しており、賃上げは月9千円に届かない。東京都板橋区

かたけかなえ保育園も、基準の1.5倍の保育士を配置し、基準にない看護師らもいる。支給される額を正規職員で配分すると、月7千円ほどになるといふ。厚生労働省の調査では、私立園で働く保育士の平均月給は約26万円、全産業平均の約33万円より少ない(2021年)。非正規を含めて底上げをめざし、2月に始まった「9千円」上乗せ。しかし、全国福祉保育労働組合の沢村直樹理事長は、「9千円を支給される人はごくわずか」とみる。大多数の園は国基準を上回る職員がいるためだ。

このため、東京都練馬区は区の財源も使うことで、国基準より多く配られた保育士や看護師も含め、月9千円を支給すると決めた。清水輝一保育課長は「区も基準超の配置を願っている。コロナ禍で同じ現場で働く人たちは、同様に9千円を届けるべきだと考えた」と話す。
保育士が専門の元府京大教授で、認可保育園を運営する村山祐一さんは「もとも1人9千円には届かない仕組み。本気で賃上げを考えたなら、働いて



私立の認可園「わかたけかなえ保育園」。園が定めた最低限の基準以上の職員を配しており、賃上げは月9千円に届かない。東京都板橋区

いる人数をもとに支給するべきでは」と指摘する。そもそも賃上げの対象にならない保育士もいる。

今回の補助は公立園も対象で、私立と同じく市区町村が園に適用を申請する。内閣府によると、全国1741市区町村のうち、公立園で昨年度分の補助を申請したのは474だけ。公立園がない自治体もあるが、3割にも満たない。
公立園の申請を見送った政令指定市の担当者は「公務員の給与は条例で決めており、保育士だけ特別扱いが難しい」と説明する。
ただ、全日本自治団体労働組合の20年調査では、自治体で働く保育士のうち正規職員は47%で、残る過半数は非正規の会計年度任用職員。その約2割はフルタイムだが、それ以外では平均時給は1077円だ。
任用職員として愛知県内で働く保育士は、今回の上乗せに期待していたが、勤め先の市は公立園の申請を見送った。「結局、スローガンだけ。評価されないんだな」と感じます」
(中井なつみ、土井風典)